

れ來りし名のきこえたる河東ぶしの三絃彈にて、藝を業とする者なれば、目錄を給はりけり、時に文魚たまもの、反物を、今日はたいぎなり、是は寸志なりとて、一人へ三反一人へ貳反、其座にてとらせたるを、貫ひし三味線彈、昨夜かやうの事有りしとて、亡兄に語りて、文魚を稱したりき、おのれかたはらにありて聞きぬ、三味線彈は、山彦源四郎なりき、紀文が天井の紙文魚が八丈縞の一對の奇談と云ふべし。

〔朝野群載文筆〕續座左銘井序

江都督〇匡房

貧賤敢勿屈、富貴敢勿奢、〇下

〔明良洪範〕其頃京都ニテ公家町人、總テ花美ニ慕リ、種々奢侈ナル事共聞エシカバ、御仕置ノ爲

老臣ノ中ヨリ重矩〇板倉撰ミ出サレ、上京セラレ、寛文中迄諸司代ヲ勤メラレケル、〇中其時町

奉行ハ宮崎若狹守、雨宮對馬守也、重矩上京シテ、公家門跡ナドニハ目ヲ付ズ、町人ヲ嚴敷禁ラレ

シ、其中ニ〇中難波屋十右衛門ト云富者有リ、様々ナル奢侈ヲ盡ケルガ、町人ニテハ面白カラズ

トテ、聖護院ヘ用金ヲ多差上、家來分ニナリ、峯入ノ供ヲシタリ、歷々ノ士ノ如ク、供人多ク召連レ、

目ヲ驚ス計也、箇様事共風俗ヲ亂シ、世ノ害トナル事故、其過怠ニ宇治橋ノ掛直シヲ申付ラレシ

ニ、早速普請出來シ、魏寶珠ニ己ガ姓名ヲ大ニ彫付テ名聞ヲ喜ビシ、此入用金、難波屋一ヶ月ノ利

金ニモ及バザリシト也、

驕慢

驕慢ハ、ホコル、又ハラゴルト云フ、縦恣ニシテ自ラ賢トスルヲ謂フナリ、而シテ帝威ノ驕傲ナリシ事ハ、帝王部外戚篇ニ載セタリ、